

令和7年1月9日
板橋区児童福祉審議会
令和6年度第2回本委員会

板橋区子ども家庭総合支援センターの 機能と成果

※日本子ども虐待防止学会第30回学術集会かがわ大会 一般演題ポスター発表資料抜粋版



板橋区子ども家庭総合支援センター



- 令和4年4月1日に開設
- 開設時に「子ども家庭総合支援拠点」(現：こども家庭センター)の機能を移転のうえ継続し、令和4年7月より
児童相談所設置市へ移行し業務開始
(東京都特別区では6番目に設置)

板橋区子ども家庭総合支援センター所長（児童相談所長）

支援課 (こども家庭センター機能)

- ・子育てに関する幅広い相談対応、伴走型支援
- ・育児支援サービスの提供
- ・要保護児童対策地域協議会の運営

援助課 (児童相談所機能)

- ・児童虐待通告等の調査・判定に基づく援助
- ・施設等入所児童の支援、家庭復帰・自立支援
- ・里親制度の普及・啓発、里親研修、里親支援

保護課 (一時保護所)

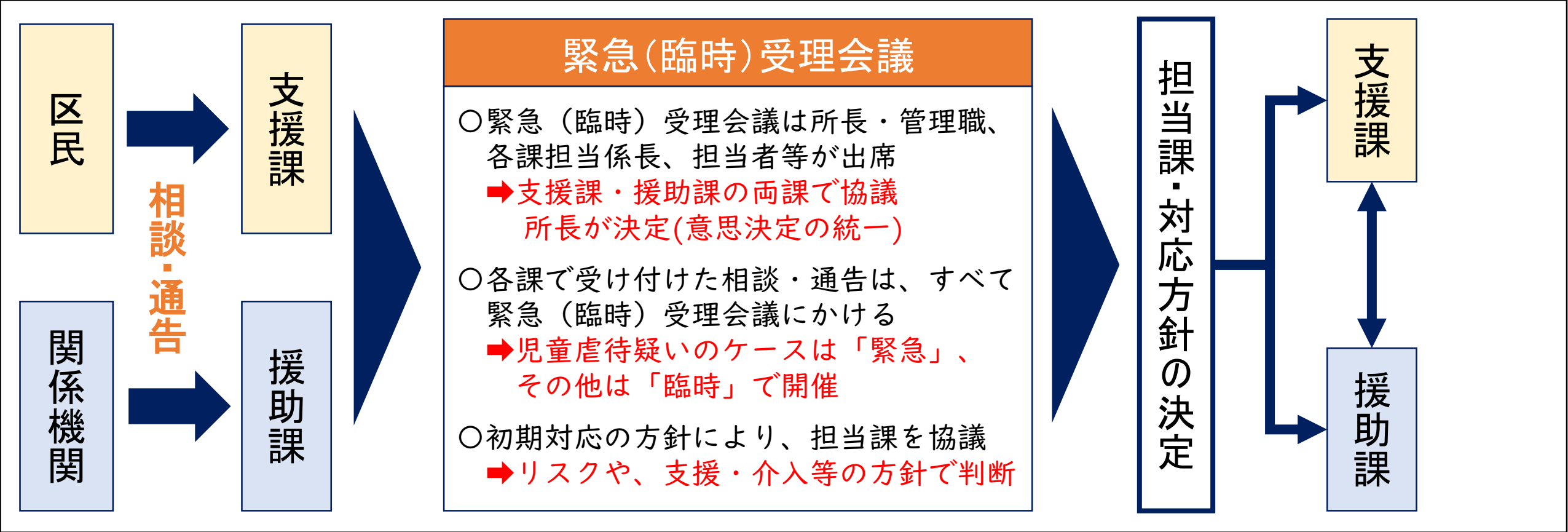
- ・24時間365日、保護児童の生活の支援

法務担当課長 (常勤弁護士)

子ども専門相談担当課長

機能と成果 ①一体的運営（1／2）

■ 相談・通告の受付から受理までの流れ

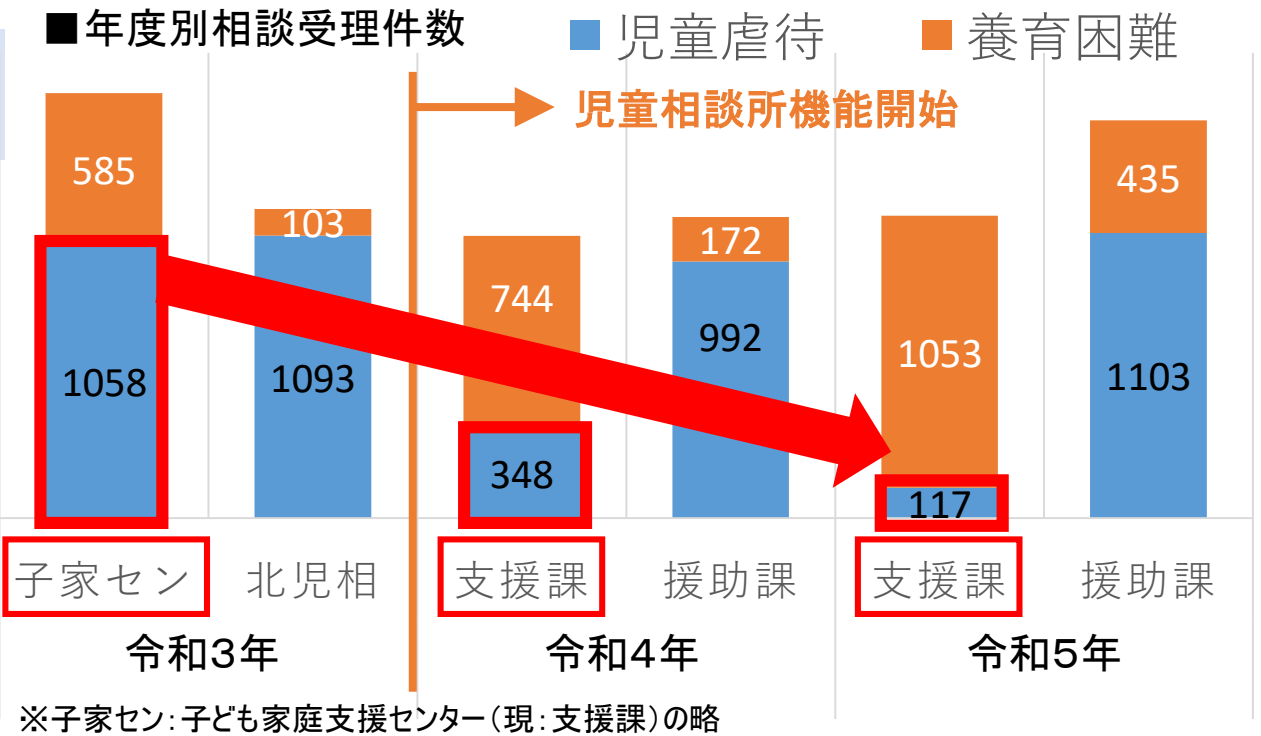


《 支援課(こども家庭センター)の相談対応の変化 》

開設前：虐待対応 > 養育困難

開設後：虐待対応 < 養育困難

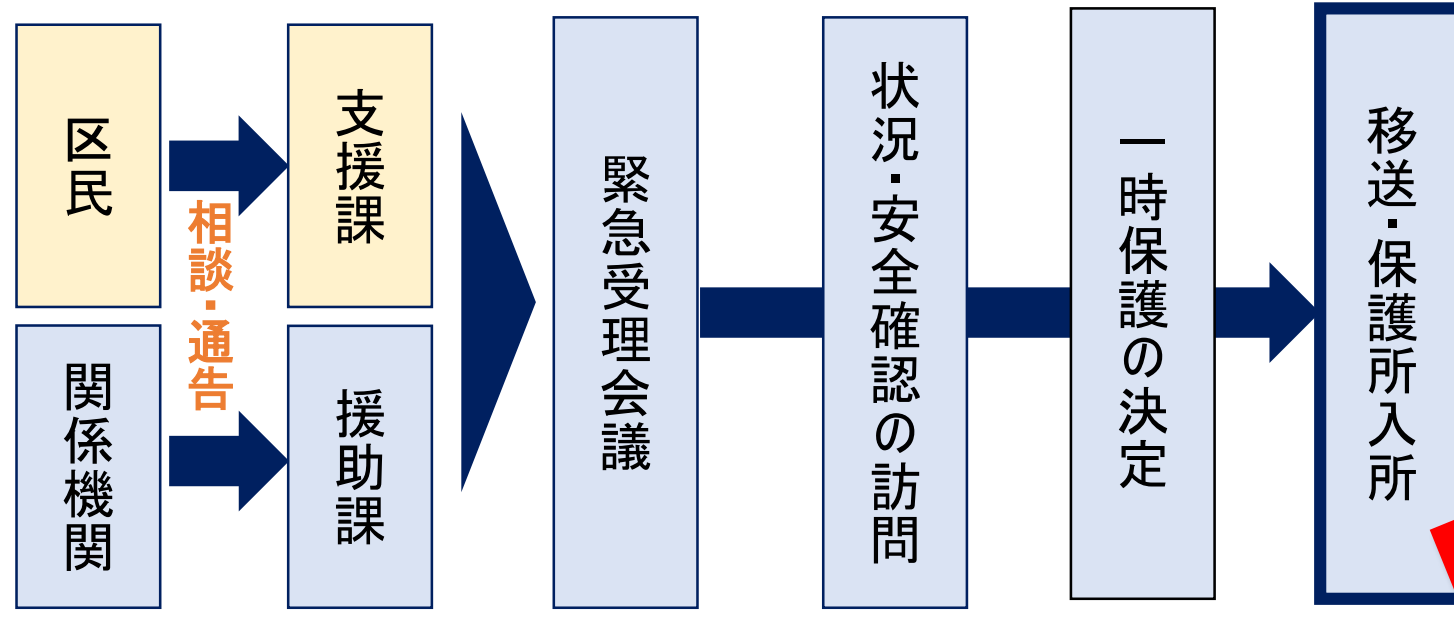
児童虐待相談対応を援助課が中心に担うことで、支援課は、養育困難等の相談対応が増加している。支援課・援助課の役割分担が明確化した。



機能と成果 ①一体的運営（2／2）

■児童虐待通告の流れの違い（一時保護が必要なケース）

現在の流れ

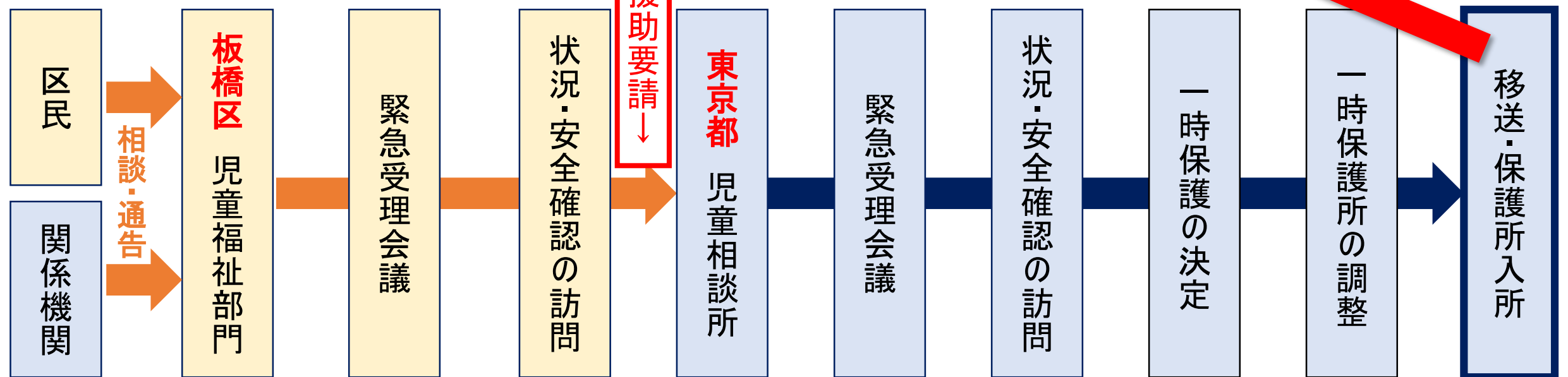


保護所1か所のため、広域での移送は不要（委託時を除く）。警察からの身柄付通告の場合も移送までの時間が短縮化。

初動から一時保護までの迅速化
→子どもの速やかな安全確保
子どもの負担軽減

時間短縮

開設以前の流れ



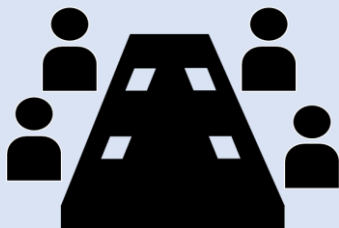
機能と成果 ②要対協の専属組織（1／2）

■地域連携推進係の取組

職員体制	8名（児童福祉司任用資格を持つ職員を4名配置）
役割	要保護児童対策地域協議会調整機関、関係機関連携

集合型 実務者会議

- ・22の中学校区ごとに開催
- ・会議は2部制で開催
 - ➡乳幼児部門、小中学校部門
- ・児童台帳の進行管理を実施（ケース担当者は出席しない）

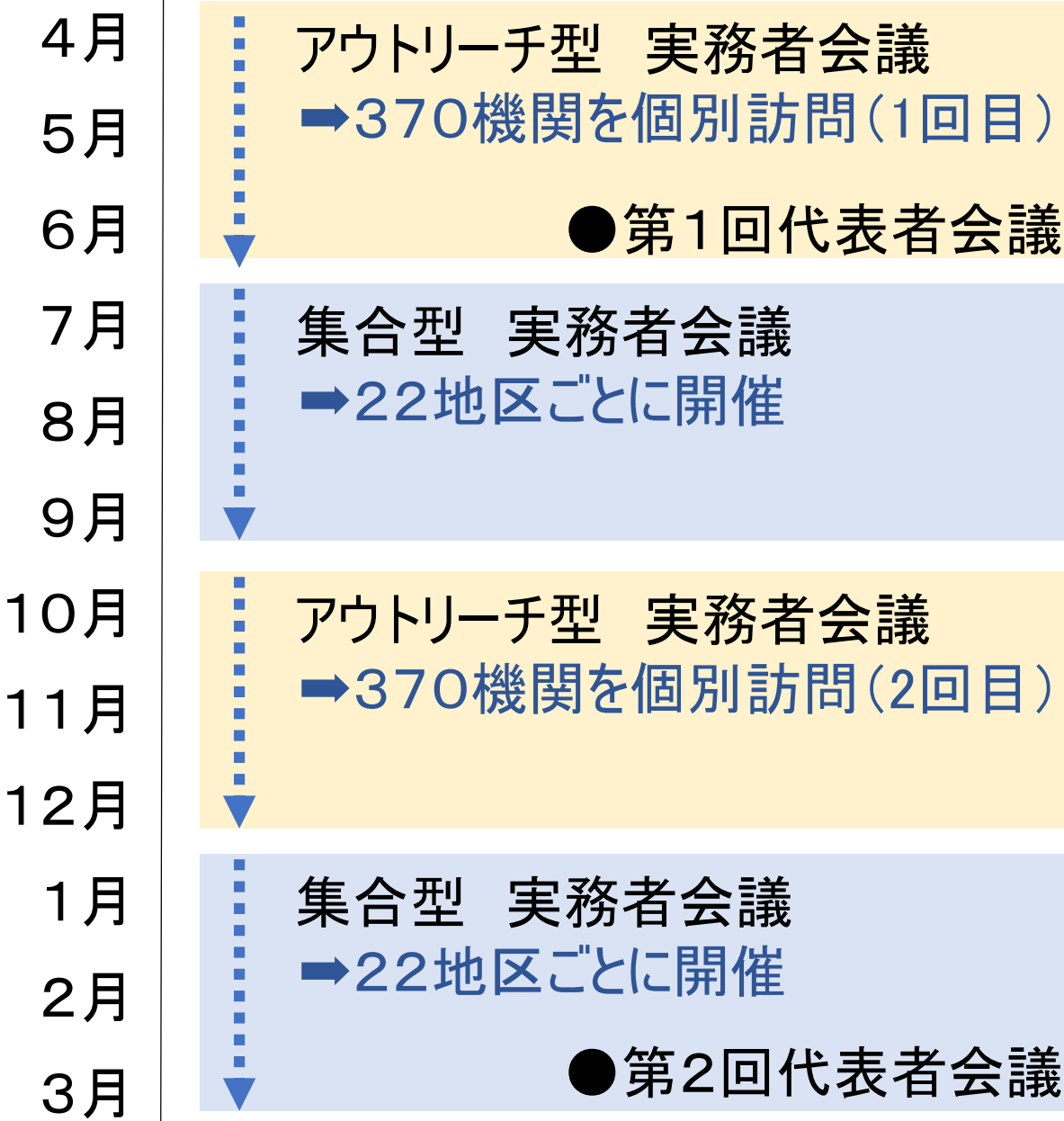


アウトリーチ型 実務者会議

- ・370機関を個別に訪問
- ・各機関の管理職等からヒアリング・相談
 - ➡気になる子ども・家庭等の情報を聴き、通告の判断基準や見守り方法等を助言
 - ➡児童虐待防止対応ガイドラインの説明

新規

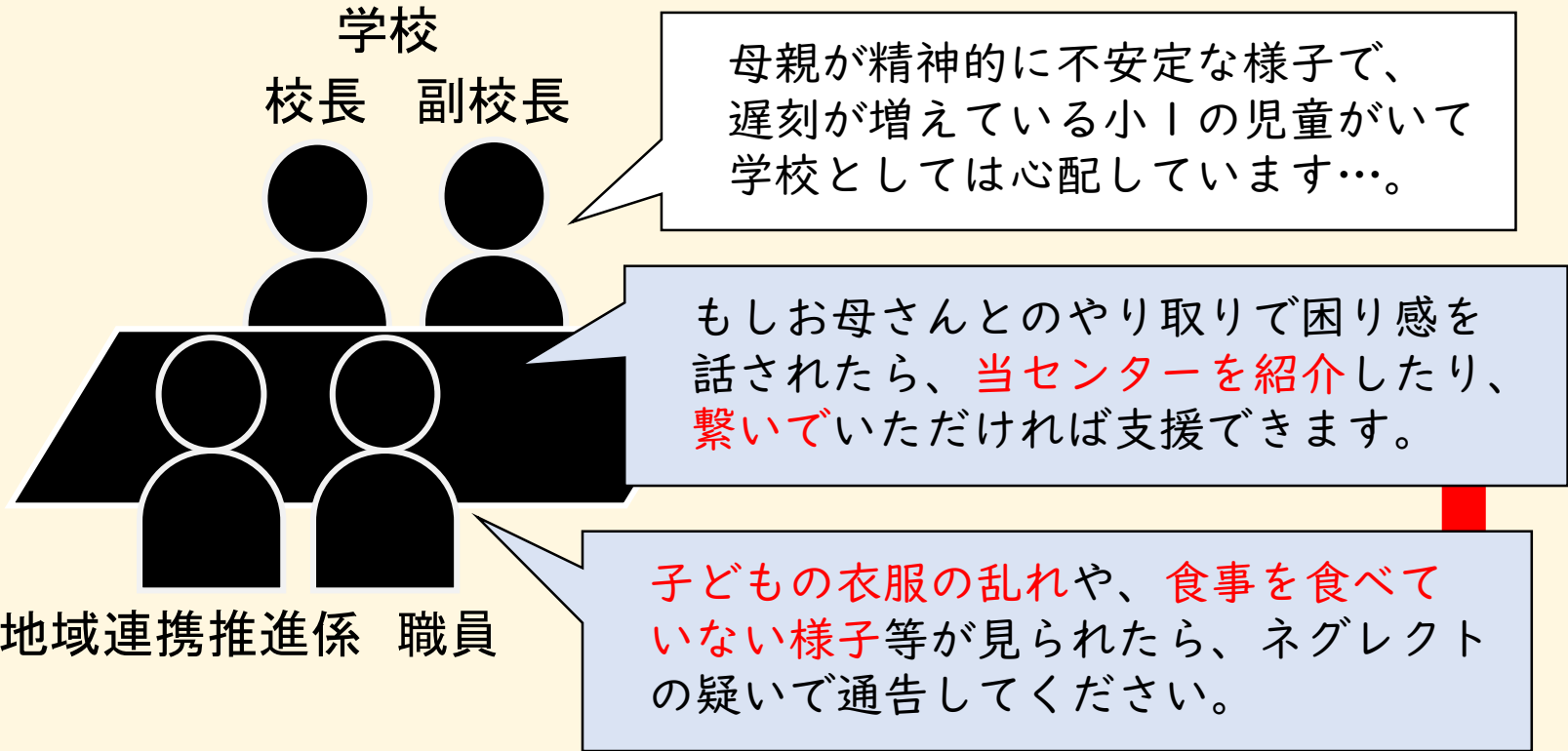
《年間スケジュール》



機能と成果 ②要対協の専属組織（2／2）

■アウトリーチの取組

支援課地域連携推進係の職員が関係機関を訪問し、係属中の子どもの情報共有と、新たな心配のある子ども・家庭の情報共有を行う。



相談に対し、センターへの繋ぎ方の助言や、虐待通告の判断基準や通告方法を助言

《訪問機関数の推移》

令和4年度	327機関
令和5年度	370機関
令和6年度	400機関

対象
拡大

令和5年度以降、小規模保育園や事業所内保育所、認証保育所など未就学児の在籍園を中心に拡大

《新規児童数の推移》

	前期	後期
令和4年度	—	130件
令和5年度	179件	249件

関係機関の意見：「虐待等の視点で子どもを見るようになったことで、相談・通告のハードルが低くなった(判断しやすくなった)」

関係機関の、児童虐待等への感度を高め（早期発見）、心配な子ども・家庭を支援へと繋げる（早期対応）仕組み

機能と成果 ③ユニット形式

定員	30名
ユニット (6名定員)	幼児 1ユニット 学齢男子 2ユニット 学齢女子 2ユニット
職員体制	幼児ユニット 9名 学齢男子 12名 学齢女子 15名 心理療法担当職員 2名 看護師 2名 学習指導員、児童支援補助員



幼児ユニットリビング



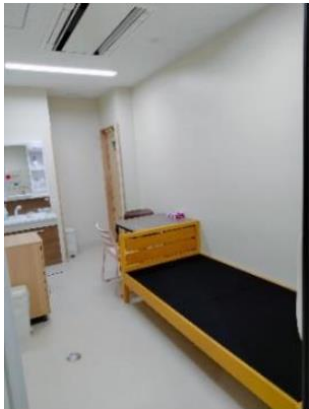
学齢児ユニットリビング



個室



体育館



静養室



学習室

《板橋区一時保護所の主な特徴》

○あなたの思いを教えてシート

保護所の担当職員を決め、シートを活用して入所直後の子どもの思いを聞き取る。

○食事はユニット単位

職員、時には子ども自身も手伝いながら配膳し、6人のユニット単位で食べています。

○ゲーム機を1ユニットに2台設置(幼児除く)

ポータブルゲーム機を平日1時間、休日2時間、1人で楽しめます。順番は子ども達で話し合い調整します。

○個室のTVにハードディスク(HD)を設置

日中・夜間に見たい番組はHDに録画し、余暇時間に見ることができるようにしています。大きなトラブルはなく、子ども達は視聴を楽しんでいます。

権利擁護 ～アドボケイトの取組～

一般社団法人のアドボケイトの皆さんが、**毎週土曜日、6～8人で来所し、12:30～14:30の間に子ども達と交流**したり、交流する中で、子どもが希望した際に個別に話せる時間を作ることで、子どもが様々な人に意見表明できる機会を確保します。

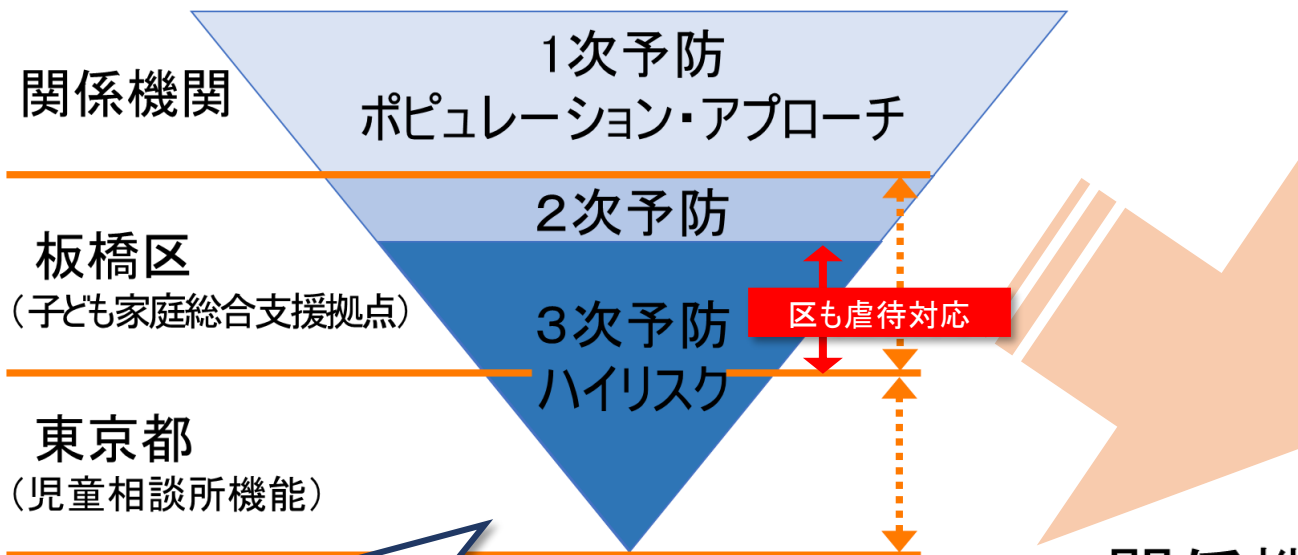


アドボケイトに話したいことがある時に投函できるポスト
※鍵はアドボケイトが管理

ユニット形式による家庭的な生活環境や、子どもの気持ちに寄り添った運営により、様々な背景や課題のある子ども達ですが、多くの子が落ち着いて生活しています。

機能と成果 まとめ

開設前

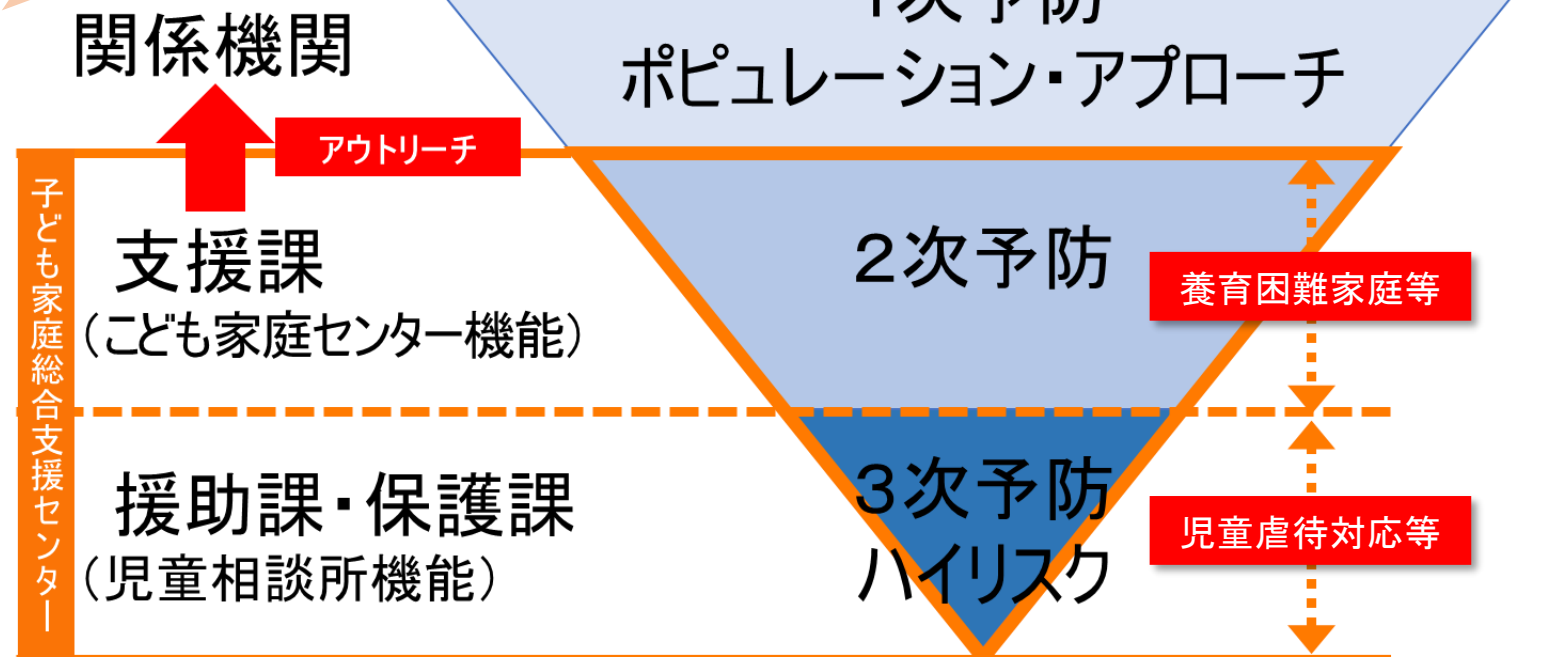


開設前の状況

- 板橋区も東京都とともに、日々、児童虐待対応に追われ、関係機関との連携や、養育困難等の相談に十分な対応が出来ない状況

開設後

- 要保護児童対策地域協議会による関係機関の連携・育成強化
- 2次予防として、虐待に至る前の養育困難等の相談対応の充実
- 児童相談所機能が、虐待をはじめとするハイリスクケースの対応に専念



- 一体的運用により、役割分担が最適化され、児童虐待等に至る前の予防・未然防止から、早期発見・早期対応、迅速な安全確保まで、区において一元的な対応が可能となったことが成果。
- 人材育成や関係機関による見守り機能の強化等が今後の課題。